令和7年度

鳴門西学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①「基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実」
②「学び合いによる思考力・判断力・表現力の充実」
③「学校と家庭との連携による生活・学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

田中　百合恵

校長　教頭　佐藤　道代　研修主任　西上　真紀
低学年推進員　1年学年主任　大野　実緒
中学年推進員　3年学年主任　中尾　優志
高学年推進員　6年学年主任　阿部　美希

校長

内田　洋一

【各校の取組状況の把握について】

・指導技術や取組を共有できる研修（授業研究・グループトーク等）を行う。
・学校評価やチェックシートなどを活用し、定期的に取組状況を把握する機会をもつ。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

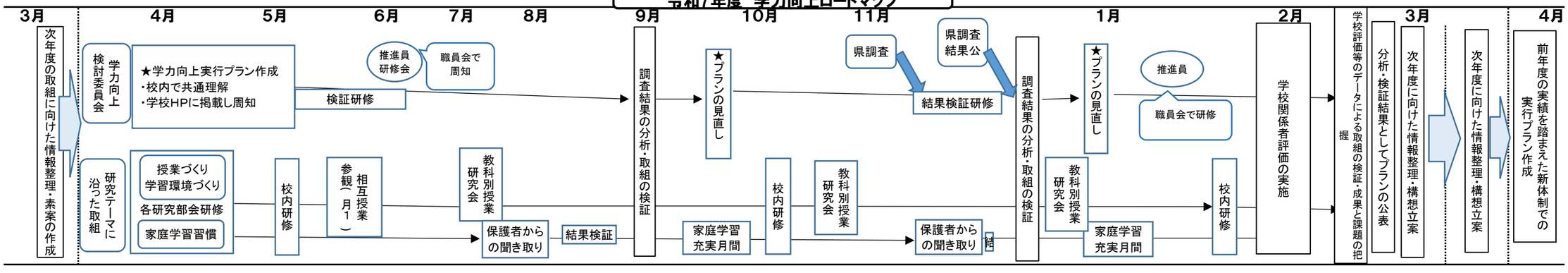
(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算などについては、ある程度の定着が見られる。 ○読書に興味・関心をもつ児童が多い。 ●学力の二極化傾向が見られる。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・文章の内容を正しく読み取ったり、要点を抑えて話を聞いたりすることができる。 ・主述の整った文章を書くことや、自分の考えをまとめて書くことが習慣化している。 ・学習の過程を通して習得した知識を、他の学習の場面で活用することができる。	・ICT(AIドリル等)とプリント教材のそれぞれの良さを生かして効果的に活用する。 ・ノートの書き方や板書についての校内モデルを作成する。 ・書く力を育てるために、「あわスタ」の活用を検討する。友達の作文を批正し合う場を取り入れる等、文章の質を高めるための取組を行う。 ・学習が早く終わった児童が取り組める内容(プリントや「キュビナ」等)を工夫し、より個別の学びに対応できるようにする。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○体験活動を好み、意欲的に活動できる。調べ学習や目標が明確で見通しのつく課題には安心して取り組み、思ったことを素直に発表できる児童が多い。 ●語彙が少なくコミュニケーション力に課題のある児童が多い。 ●友達の意見を聞いて、自分の意見と比べたり自分の考えを整理したりして思考を深めることが難しい。	・調べたり体験したりした情報を整理し、自分の考えを自信をもって表現することができる。 ・自分の考えと比べながら、相手の意見を聞いたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることができる。 ・ICTを効果的に活用して、思考をまとめたり表現したりすることができる。	・学び合いを更に充実させるために、学級集団や発達段階に応じた話し合いの目標を検討する。「徳島版読解力」を活用する。 ・思考や表現のツールとしてタブレットを低学年から使うことを習慣づける。各学年で取組の目標を設定する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題については真面目に取り組む児童が多い。家庭学習の習慣が定着してきた。 ●難しいことや疑問に思ったことを追究しようとする意欲が乏しい。学習の見通しをもって、主体的に取り組むことが難しい。 ●学習用具の準備・学習態度など、生活・学習習慣の定着が十分でない児童が一定数いる。	・学習の構えができている。 ・自分の学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・家庭学習を自主的に行い、問題解決に取り組むことができる。	・学校全体で、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の授業の流れを統一し、子どもが自ら学びを深めることができるようにする。 ・授業のユニバーサルデザイン化を更に進める。 ・家庭学習に取り組みやすくするために、低学年から、自分で学習を進める機会を設けたり、自主学習の仕方を教えたりする。引き続き、家庭学習の手引きの見直しを行い、家庭への啓発を強化する。			

令和7年度　学力向上ロードマップ